

## 平成25年度復興支援の担い手の運営力強化実践事業

いわて文化支援ネットワーク通信

## アシスト・なう

8号

発行日  
平成26年3月21日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

- 1~3面 2013年 盛岡市提案型復興推進事業 リーディング カフェ
- 4~5面 調査研究報告 東日本大震災以降の被災県における公立文化施設及び文化行政に関する実態調査
- 6面 陸前高田市「うごく七夕祭り」 ■7面「YUKIKO ~再び、うたを~」 ■8面 これからのイベント情報



日時: 11月3日(日・祝)

会場: 盛岡公演①盛岡町家旧藤原家

演目: 「賢治旅行記 2013」

原作: 宮沢賢治 構成・演出: 坂田裕一

出演: 江幡平三郎、菊池与志和、上野敏明  
東海林千秋、星佳奈

日時: 11月17日(日)

会場: 釜石公演①

古民家レストランこすもす別館高屋敷

演目: 「キサブロー、帰る」

原作: 大村友貴美 構成・演出: 坂田裕一

出演: 山口ゆかり、菊池与志和

東海林千秋、坂田裕一、河村圭輝

日時: 11月24日(日)

会場: 宮古公演 そけい幼稚園

演目: 「愛の記憶」

原作: 高橋克彦 構成・演出: 中村一二三

出演: 伊勢二郎、坂口奈央



**岩手ゆかりの作家の作品を「朗読劇」**にして、岩手県沿岸部を中心に全9箇所で開催した『リーディングカフェ』。通常の朗読公演とは違い、音楽や映像等の演出効果を加えてお送りする「朗読劇」は岩手独特のもので、ゆったりと朗読劇を鑑賞していただいたあと、出演者とお客様が共に語り合い、お互いの思いを交換することで『癒しの非日常空間』をお届けするという企画です。

**この企画を通しての発見のひとつに、「同じ作品でも、上演場所が変われば、作品の雰囲気が変わる」ということが挙げられます。**たとえば『賢治旅行記2013』は盛岡・久慈・遠野・釜石の4箇所にて上演しましたが、その会場の持つ雰囲気や魅力を活かした演出をその都度考えながら上演し続けたことで、同じ演目でありながら、それぞれの公演が唯一無二の作品になったように感じました。これもまた、様々な場所で公演をするということの魅力のひとつなのだろうと思います。

**今回の上演場所は**普段のホール公演と比べると、小さな場所がほとんどです。必然的に出演者とお客様との物理的距離も近くなり、それが出演者とお客様との交流より、よい効果をもたらしたように思います。お客様からは「なかなか朗読の公演はないので、

是非また来てほしい」「お茶を飲みながら朗読が聴ける空間がいい」等の声をいただきました。

**また、「より地域に密着した作品づくり」も進めることができました。**11月17日(日)の『キサブロー、帰る』では、原作者である大村友貴美氏の故郷である釜石市で公演を行い、10月に上演された釜石市民劇場に出演した地元の小中学生と一緒に作品をつくりました。そして11月24日(日)の『愛の記憶』では、地元・宮古で活動する劇団『劇研麦の会』と合同公演を実施することで、地元の方々とよりいっそう親睦を深めることができ



ました。

**今回、それぞれの地域でお客様とお話しをさせていただくことで、朗読劇の感想のみならず、現在のその地域の事情や今求められているもの等様々なことを学ぶことができました。**大きな収穫でした。得たものをこれからの活動に活かし、今後どういった支援をしていくべきなのか、被災地の方々と一緒に考えていきたいと思えます。

**「リーディングカフェ」アンケート抜粋**

- 普段、なかなかこういった朗読劇を聴く機会がないので、とても楽しかった。是非また来てほしい。
- 自分で本を読むのと、こうやって朗読劇として聴くのとでは、また印象が違っておもしろい。
- 岩手出身者が書いた作品を、こうやって岩手で上演してもらえるのは、とてもありがたい。
- 読み手と観客の距離が近いのがいい。
- 大がかりなセットなどがなくても、じゅうぶん楽しめた。
- 朗読劇の上演だけではなく、終わったあとに観客が直接感想を伝えることができたり、読み手から話を聞くことができたりするというのは、とてもおもしろい企画だと思う。ぜひ続けてもらいたい。
- 自分も絵本の読み聞かせをしているが、朗読劇を聴いてみて、いろいろと発見があった。今後の活動に活かしたい。

**日時：12月7日(土)**  
**会場：久慈公演① ビストロくんのこ**  
**演目：「賢治旅行記2013」**  
 原作：宮沢賢治 構成・演出：坂田裕一  
 出演：大森健一、菊池与志和、上野敏明  
 東海林千秋、星佳奈



**日時：12月23日(月・祝)**  
**会場：久慈公演② やませ土風館**  
**演目：「愛の記憶」**  
 原作：高橋克彦 構成・演出：中村一二三  
 出演：伊勢二郎、畠山泉



**日時：3月15日(土)**  
**会場：遠野公演 とおの物語館**  
**演目：「賢治旅行記2013」**  
 原作：宮沢賢治 構成・演出：坂田裕一  
 出演：江幡平三郎、菊池与志和、千葉伴  
 東海林千秋、森木都恵

**日時：3月16日(日)**  
**会場：釜石公演② 小佐野コミュニティ会館**  
**演目：「賢治旅行記2013」**  
 原作：宮沢賢治 構成・演出：坂田裕一  
 出演：江幡平三郎、菊池与志和、千葉伴  
 東海林千秋、森木都恵



**日時：3月19日(水)**  
**会場：盛岡公演② 風のスタジオ**  
**「愛の記憶」「桜の挨拶」** 原作：高橋克彦  
**「愛の記憶」** 構成・演出：中村一二三  
 出演：伊勢二郎、小野寺斉子  
**「桜の挨拶」** 構成・演出：坂田裕一  
 出演：伊勢二郎、小野寺斉子、坂田裕一

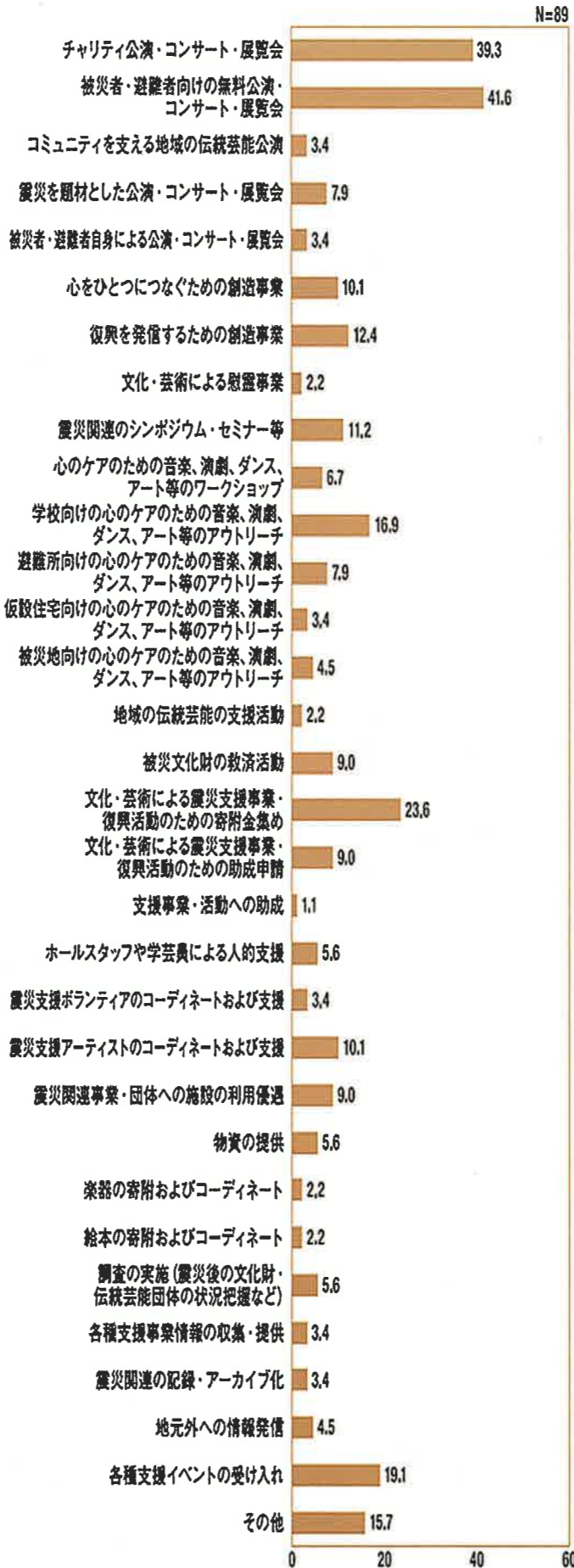
**日時：3月20日(木)**  
**会場：陸前高田公演 ジャズタイム・ジョニー**  
**「愛の記憶」「桜の挨拶」** 原作：高橋克彦  
**「愛の記憶」** 構成・演出：中村一二三  
 出演：伊勢二郎、小野寺斉子  
**「桜の挨拶」** 構成・演出：坂田裕一  
 出演：伊勢二郎、小野寺斉子、坂田裕一



■ 貴館が今後の公立文化施設運営において不足している、課題である、あるいは見直したいと感じた点がありますか。



■ 貴館が実施した特別事業は何ですか。

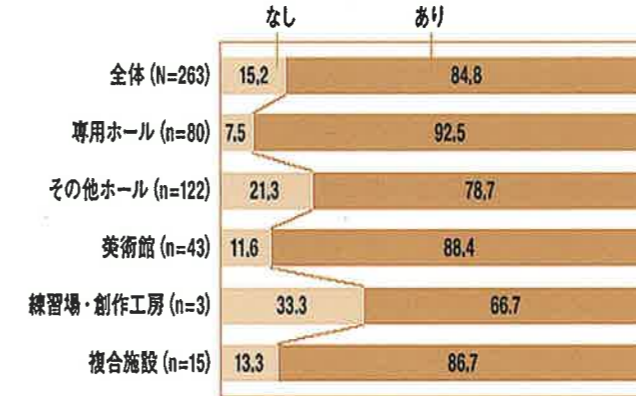


調査研究報告

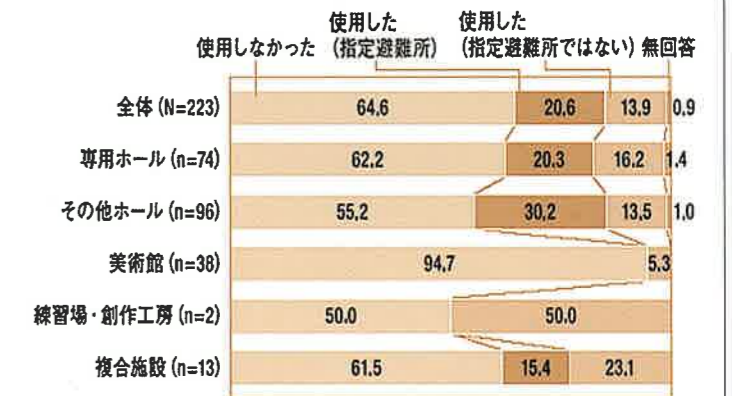
東日本大震災以降の被災県における公立文化施設及び文化行政に関する実態調査

財団法人地域創造は、東日本大震災が公立文化施設や地方公共団体の文化関連の活動に与えた影響を把握するため、特に被災の影響が大きいと考えられる5県(青森・岩手・宮城・福島・茨城)にある公立文化施設および地方公共団体に対してアンケート調査を実施しました(調査期間:2011年12月15日~2012年2月3日)。以下抜粋。

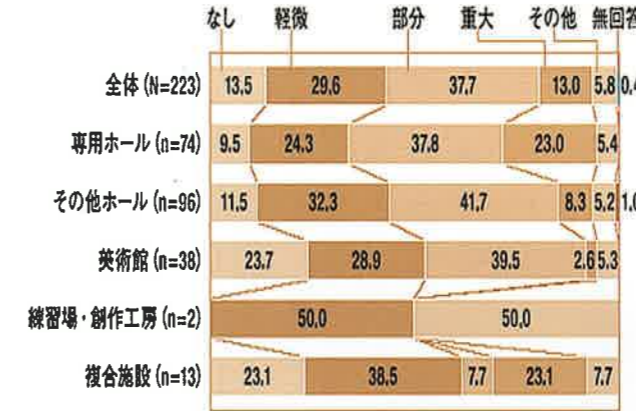
■ 震災の影響で施設を閉館しましたか。



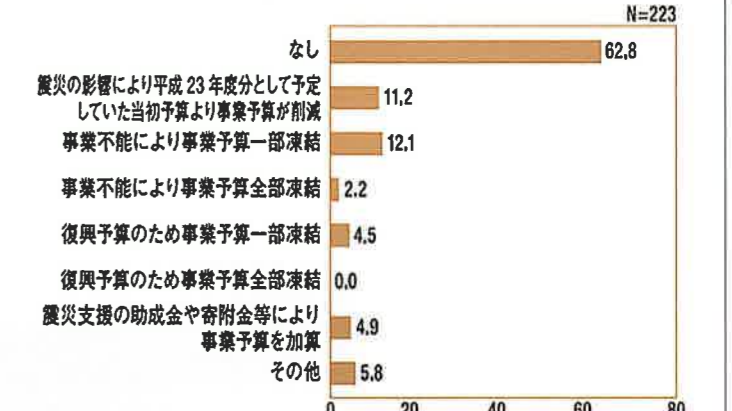
■ 貴館を避難所として使用しましたか。



■ 貴館の施設について損壊はありましたか。



■ 平成23年度事業予算に影響はありましたか。



震災から3年が経過し、流失あるいは倒壊した文化施設の復旧が進められつつあります。復旧ではなく新しい文化施設の創造を期待する住民の声もありながら、そこには依然として国の復興予算配分の大きな壁があります。本調査の「今後の公共文化施設運営」について尋ねた項目では、「非常時の備え」について強く指摘されていますが、それは取りも直さず、平時からの積み重ねにほかなりません。この調査の文章回答では、文化施設の多くが指定管理者であり、緊急時対応に即さない実態も指摘されています。被災後、文化活動の場が限られるなかで数多くの文化NPOが被災地から生まれ、それまで鑑賞型が多かった地域に参加型やアウトリーチ型事業の展開されるようになりまし。そしてそこには、文化活動と人を結びつけるコーディネーターの役割の重要性があることを、いわて文化支援ネットワーク主催「熟議」の中でも何度も語られました。価格競争の中で管理主導の運営に淘汰されることなく、平時からの文化の基盤作り、ひと作りの重要性を声にしていかねればと思うところです。最後の表の、特別事業が目白押し状況下、現場で主体的に動かれた施設職員の行動が、棒グラフの低い項目に見え今後の支援の方向性をみいだしたように思います。(U)

# 陸前高田市「うごく七夕祭り」



文化支援ネットワークでは、陸前高田市の「うごく七夕祭り」復活を願う市民の活動に呼応し、資金協力と助成金申請のコーディネートをしていただきました。12台の山車のうち10台が流され、地域のコミュニティが崩れ、まつりの存続が危ぶまれる中であっても、復興を信じる人たちがいました。2013年8月7日、私たちは陸前高田市で行われた「うごく七夕まつり」森前組の山車引きに参加しました。

うごく七夕まつりは、毎年8月7日に陸前高田市高田町で行われるお祭りです。「七夕」と聞くと、笹に短冊を結んで...といった光景を思い浮かべるところですが、この七夕まつりはそれとは違い、「新盆を迎える方々を弔う」という意味を持っています。飾り付けられた山車の上で太鼓や笛を演奏しながら大勢で高田町内を練り歩くこのお祭りは、江戸時代より受け継がれ、数百年にのぼる歴史があります。各地区によって違う装飾を施した山車は、その勇壮かつ華やかな姿で、人々の目を惹かせてくれます。



震災によって陸前高田市は壊滅的な被害を受け、多くの山車が流されました。森前組の山車を建設し直すには500万円もの多額な資金が必要で、それを

確保する為、いわて文化支援ネットワークもお手伝いをさせていただきました。そのご縁で、当日の山車引きにも参加させていただくことができました。祭り当日は、森前地区の方々は勿論のこと、県内外から沢山の山車引きが集結しました。中には「大阪からボランティアで来た」という方や、「復興支援ボランティアツアーで来た」という若者たちの姿も。老若男女あわせて50人程の人々が声をあわせて山車を引き、山車の上の若者たちが汗を流しながら太鼓を叩き、笛を吹く姿は、本当に勇ましく、心躍るものでした。



今後、陸前高田市は、津波の教訓を活かして、盛り土をした高台の上に新たな町並みを構築する計画だということです。そうなった場合、この「うごく七夕まつり」にも、今後ならんかの変化が出てくるのかもしれない。しかしながら、この祭りの勇ましさ、そしてこの町に暮らす人々の絆や、祭りに対する情熱は今後も変わることなく受け継がれていくでしょう。ふるさとを愛することの素晴らしさ、人と人との強い結びつきの大切さを、この祭りと陸前高田に暮らす方々から教わったように思います。(小笠原)



この話は全て架空の話であるが、場所と主人公ユキコにはモデルがいる。陸前高田市の仮設のジャズタイム「ジョニー」であり、その女主人・照井由紀子さんである。

被災地への支援活動でたびたびジョニーを訪れた。由紀子さんは私の中学時代の同級生である。平成24年の秋、「由紀子とジョニー」のことを芝居にしたいなあと言ったら、「是非書いて」と言われ、条件も添えられた。「震災前やその当時のことじゃなく、今からのことを書いて、そして夢を持って生きたいから」というものだった。

陸前高田にはやはり中学時代の親友がいる。菅野健一、和太鼓の奏者だ。被災地支援では案内役を買ってもらった。彼によると高田町の同級生は7人犠牲になったという。竹駒や下矢作の同級生も含めると多岐にわたるかもしれないという。私たちの出身中学は、陸前高田市立第一中学校。震災関連ニュースで度々登場する例の学校だ。私は盛岡からの転校生だったが、第一中学校は高田、竹駒、下矢作の三つの中学が合併したばかりで、同じ校舎で学んだ実質的な第一回目の卒業生だった。だから卒業アルバムはない。



教室の由紀子さんの席も菅野健一さんの席も私の席に近かった。彼女の当時のイメージは文学少女。卒業後、しばらくたって詩を書いているという話を聞き、なるほどと思った。



震災の年の夏、十年ぶりくらいに再会した。文化支援先の相手が由紀子さんの知り合いで、まだ瓦礫が沢山残る竹駒駅跡の空きスペースに由紀子さんを連れてきた。この近くに、仮設のジョニーを再開すると語り、震災では寸前のところまで逃げることができたと教えてくれた。大切な人たちが亡くなったと寂しそうだった。

同級生ばかりではなく年下の知り合いも亡くなっていった。亡くなった彼らだって、夢を持って生きて行こうと思っていたに違いない。「早く日常に戻りたい」と文化支援活動で知り合った被災者が言っていた。取り戻したい日常ってなんだろう。日々の暮らし、恋する日常、子育ての暮らし、苦しくも楽しい職場生活...人それぞれに違った日常がある。そして、その日常の中に、人は夢を描く。この芝居で、それに少しでも近づきたい。

この芝居は、震災の悲惨さを扱う芝居でも、当時の記録を再現する芝居でもない。

閉塞感漂う現状の今でもなお、夢をもつて生きようとする人々への応援歌であり、人と人のつながりの大切さを確認しあう場でもある。

なお、この作品は平成26年5月3日午後6時、4日午後2時の2回、陸前高田市高田町の光照寺・無量閣で再演されます。(作・演出 坂田裕一)